

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400698		
法人名	社会福祉法人 八千代美香会		
事業所名	グループホーム 佐和の杜		
所在地	千葉県若葉区佐和町322番地88		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム佐和の杜は、隣接する特別養護老人ホーム・デイサービスと密接に連携しており各種委員会や各種合同行事の計画等は、利用者様第一を念頭に置きスタッフ一同取り組んでおります。健康管理や医療面は、協力病院の主治医、看護師と連携を取り互いの情報が記入できる記録用紙を活用し情報共有に努めています。また介護実習生を受け入れたり運営推進会議や苑の行事等には地域の方々の参加を仰ぎ多くの方々に施設を知っていただき開かれた施設を目指しています。施設理念「**自信と喜びを育てよう**」は、利用者が可能な限り自立した日常を笑顔で送ることが出来るようスタッフは、日々努めています。又それを実現する事でスタッフの「**自信と喜び**」に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の良い点として①「自信と喜びを育てよう」の理念に沿って利用者の出来事を支援し、出来る事が自信となり喜びが生まれている。これを支える職員も利用者の元気な姿を観て喜び、自信に繋がり遣り甲斐を感じ良い関係が出来ている。②利用者は毎日散歩やウォーキング、出来る事ないかと自ら洗濯物たたみ等、ホームに仕事で来ていると思いき先して庭の清掃や畑を耕し、不自由な利用者を利用者が助ける支援も行なわれている。個別支援としてその人に合った事をする事でやる気と落ち着きが出て、職員に頼むとやってくると信頼が生まれている。③利用者は公民館の踊りを見に行き、図書館での読み聞かせに参加して交流している。ホームの消防訓練に地域の人が参加し、納涼祭では家族や近所の300人以上が参加して交流し地域との繋がりが深まっている。また、運営推進会議にも様々な分野の人が参加して意見が活かされ、地域連携の取り組みは高く評価できる。④管理者は利用者の介護度が低く良い状態にある今こそ、地域との絆を活かし連携して自立に向けた様々な活動に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自信と喜びを育てよう」を理念とし利用者の出来ることを応援し喜びを感じて笑顔になって頂けるようスタッフ一同実践しています。	「自信と喜びを育てよう」理念に沿って、利用者の出来事を支援して出来る事が喜びとなり、支える職員も元気な姿を窺って遣り甲斐を感じお互いが良い関係になっている。利用者に合った事をする事で落ち着きが出て、職員に頼むとやってくると思い信頼が生まれている。また、利用者が不自由な利用者を助ける支援も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣公民館での催し物や、近隣図書館の利用 近隣レストランでの外食・誕生会、また苑での納涼祭 美化活動 消防訓練、餅つき会等への参加を地域の方々にお願ひ交流している。	他の施設からの声掛けで公民館での踊りを見に行き、図書館での読み聞かせに参加して他の施設の人との交流が行われている。納涼祭には学校からイスを借り、家族や近所の300人以上が参加して盆踊り・屋台・花火を地域の人と協力して行い、美化運動にも参加して地域との深い繋がりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の忘年会、新年会への参加、地域の美化活動奉仕を近隣施設と協力しながら行っている。自治会主催の地域清掃にも参加させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/3ヶ月(6/16・9/15)次回は12/22の予定 利用者・家族・自治会長・民生委員・地域包括職員・駐在所警官・図書館長・薬局・等 色々の分野の方々の参加を頂き講話・要望・希望・苦情を取り入れサービス向上に取り入れています。	運営推進会議は地域包括・自治会長・民生委員・警察官・図書館長・薬局・家族・利用者が参加して年4回行われている。様々な分野の人が参加して、その職務での知見や情報が発信され、薬に関する講話や要望・苦情等をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市介護保険事業課支援班・社会援護課・高齢障害課等と運営上の事や生活保護・請求・利用者状況等についての連絡を取り合い情報交換・指導を受けています。	市の3つの担当課とは「事故報告や重要事項の変更時、生活保護者の手続きや報告、介護保険の請求等」や共益費用等運営上の問題を相談して協力して取り組んでいる。また、「防災点検・感染症・研修等」のメールにも対応している。グループホーム連合会とは空き室や他の施設の情報を活かして連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と協力し委員会活動を定期的に(1回/2ヶ月)に実施している。スタッフは、朝礼時のミーティング・ユニット会議で利用者の情報交換を行い拘束しないケアを実践しています。	身体拘束廃止について、2か月に1回委員会を開催して事例を話し合い、ユニット会議で報告されている。法人施設と共同で内部研修が行われ「声掛けの仕方・スピーチロック等」グループワークをして話し合い多様な意見を参考にしている。「薬をなるべく使わない様に・何が原因か・出来る事はないか等」職員は考えて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(6)と関連し同じ委員会にて定期的に開催し内部研修にて学習し、言葉・向精神薬・身体的な虐待を行わないよう実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設との全体会議にて社会福祉士による勉強会を行っています。現在 後見人制度を必要とする利用者様はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・を入所時に十分に説明し理解納得して頂いた上で署名・押印を頂いています。又改定時は、説明し同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1回/月発行の広報誌を送付する際利用者様状況をお知らせする。また面会時、電話連絡時、運営推進会議等で話された「意見・希望・要望」等は、1回/月のユニット会議にて情報を共有し検討している。	運営推進会議に家族や利用者が参加して意見を述べ取り組みの理解をしている。多くの家族が面会に訪れ職員は利用者の状況を話し合い、家族からの話や要望は連絡ノートに記録しユニット会議で検討している。利用者の意向は居室でゆっくりと2人きりで話をして聞き取り、意思が表せない人には表情を観て笑顔になれる試をし結果について検討している。	家族の要望もあり、月1回広報紙を家族に送付する時利用者の様子を写真やコメント入れて伝える事や年間行事予定を添付して予定を知らせ参加を促す取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・管理者会議・主任会議・ユニット会議・朝礼にて職員からの意見・提案を 聴き取っている。	職員は年2回の全体会議で今年の抱負や最近の状況を話し、管理者会議の内容はユニット会議で報告を受けて理解している。ユニット会議では利用者毎のケアカンファが行われ職員の意見・提案が反映されている。管理者は職員と契約更新時の話し合いや普段から気楽に声かけをして要望や悩みを聞いて良い関係作りを努めている。	職員が研修に参加して施設実習のテーマとして「散歩をするとうどう変わるか」に取り組んでいる。この取り組みにより意欲と遣り甲斐に繋がっているため、結果を発表できる場が作られることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	複合施設の特徴を生かしスキルアップした場合の勤務部署や資格手当等の整備は、法人等で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修・法人研修・社内研修・部署内研修・それぞれに参加し知識を高めるように支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連合会に加入し職員の技術向上を目的とした研修・地域交流・行政との懇談会を通じサービス向上を行う取り組みを始めました。(H30.8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報収集を行い面接(自宅・入院先病院・入所施設)に足を運び本人やご家族との面会を重ね話し合いで安心感を持って頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後の話し合い・入所後のご利用者様状況を常に伝えて行くことで安心して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期ケアプランの中に組み込み1ヶ月間は状況を観察して次回のケアプランに繋いでいく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活(大きな家族)を行い家族の一員としてスタッフは捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に協力し常に密接な関係を保ち家族の思いを受けとめながら利用者様に寄り添っています。家族との連絡は、常にノートに書き留めスタッフに周知ケアプランに活かしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が現役時代の後輩・同僚・または、ご近所のお友達が訪ねてこられ談笑されています。お客様には、何時でも訪ねて来てほしい旨をお願いしています。	新しい入居者が多く大勢の近所の人や友人が訪問し、元の施設の人が訪問をして良いホームと感心している。契約時にはいつでも訪ねて下さいと伝え、多くの家族が訪問をし、管理者・職員は挨拶とお茶を出し、利用者との居室で話し合っている。家族と一緒に自宅に帰り・墓参りに行き・馴染みの美容室に行く人もいる。ホームは利用者の電話や手紙等の支援して関係継続を支援している。	家族から古い写真やホームでの生活や行事の写真アルバムにして作成し、家族や職員と写真を見て昔の事を回想し、ホームでの生活の話が弾む取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	住替え・入退所で利用者様のユニットの状況も様変わりしました。それぞれの認知症を抱えながらもお互いにコミュニケーションがとれ利用者様同志の支え合いが見られてますのでスタッフは、そのお手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体的な低下により併設の特養に住み替えたり長期入院の為退所せざるを得ない利用者様と家族との関係は継続しております。面会に足を運び声かけをしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談でご本人・ご家族からの思いを汲み取りご希望に沿えるように努めています。各スタッフにそれぞれ担当利用者様を決め個々の思いを傾聴し細かく支援しています。	入所前に家族利用者と面談をして「生活歴・趣味・何をしたいか等」を聞きアセスメントに記録している。入所後は毎日の「生活身体栄養状況記録」で利用者の全体を把握している。「往診・薬・受診」記録や看護師の連絡用紙でも状態を把握している。利用者の日々の気づきや変化は業務日誌や申し送りノートで情報を共有しケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らしてきた環境など本人・家族に聞き取り今後の生活に活かしていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・生活・身体・栄養状況・医療の記録(個々)を通じて全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変わるとご利用者状況を「身体・医療ノート・申し送りノート・医務ノート」で共有し本人の意見・家族の要望・医師所見を織り込んだプランを計画作成担当者が作成します。	ユニット会議では職員が参加して記録や申し送り内容等の情報から話し合い、利用者一人ひとりのケアカンファが行われている。ユニットリーダーは家族・利用者の話や職員からも聞き取りをしてケアプランを作成している。担当職員は利用者毎のアセスメントシートを毎月チェックをしてモニタリングを行ない、変化時には医師の意見を反映して見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・ケース記録・医務ノート・ヒヤリハット記録等に記録し全員が閲覧、情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設(特養・デイサービス)との交流や提携病院からのマッサージ出張 専門病院(認知症)婦人科・耳鼻咽喉科等への受診を家族と一緒にスタッフも出来るだけ付き添い医師の指示を仰いだりと個々のニーズに合わせて支援サービスをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のレストラン・生花クラブ・リハビリ舞踊・お話しボランティア・の訪問・ビューティヘルパー等を受け入れ豊かな生活が出来るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院からの2回/月 主治医の往診 2回/週 医療連携(看護師訪問)また24時間オンコール体制のもと、本人だけではなくご家族にも安心して頂けるバックアップ体制が取れています。	1名の利用者はかかりつけ医の受診継続を希望して家族が対応し、薬をもらって管理し情報を共有している。月2回往診時に職員は上申書により状態を説明し受診ノートに記録している。週2回訪問看護師による健康管理が行われ、24時間のオンコール体制が出来ている。体調変化時には家族に伝え協力病院の受診は職員が同行し、それ以外の専門病院は家族が対応し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットで1回/週、医療連携の看護師によりご利用者の健康状態を診て健康管理をして頂き指示を仰いでいる。救急時には併設施設の看護師に診て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、病院に足を運び必要な時は食事介助をしたり病状把握に努め、病院の相談員や医師に相談し又ご家族と話し合い早期退院を目標に情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へは、契約時に「 重度化した場合の方針 」をご説明している。体調変化があった場合、話し合いの場を持ち方針を決定する。	契約時に「重度化した場合の対応について」看取りの考え方や看取りはしない事を説明し、緊急時の医療連携について了解を得ている。また、ホームで生活できない状況の時は特養等への切り替えの説明をしている。利用者の状態を見て特養等への移転の話をし、重度化時には家族・医師・ホームで話し合い、医療行為は出来ないため病院へ入院や救急車での対応が行われている。	延命治療に関する同意書を作成して、救急搬送時や入院時等に対応出来る事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に参加し知識や実践の習得に努め、応急手当、初期対応について学んでいる。急変時の対応マニュアルは、各自ケースファイルに明記されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年3回（日中・夜間・地震等）を想定し水消火器での消火訓練・併設施設との協力体制は、できている。地震車による防災体験も行っており地域の方・駐在所員にも参加して頂いています。	年3回日中・夜間・地震を想定した防災訓練は手順書に沿って役割を決め「通報・避難誘導・消火訓練」が行われている。消防からの大きな声を出す事は周知し、職員はローテーションをして全職員が参加し習熟度は高い。県公社による防災・地震体験がホームの駐車場で行われ、警察・近所の人々が参加して煙の怖さを体験している。業務日誌で毎日の火元点検が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言葉かけに注意し対応している。排泄介助時には、プライバシーに気をつけております。個人情報や接遇マナーについては、内部研修を実施しています。	「ちょっと待って等」スピーチロックは研修で取り上げ、「語気が強い・馴れ馴れしい言葉遣い等」は注意をしている。職員は利用者に「さんづけ」をし敬う等言葉遣いや声かけには意識を持って対応している。管理者はコミュニケーションの大事さを職員に教え、利用者を知る事で良いケアに繋がり、挨拶やありがとうの言葉を大事にしている。居室にはノックと挨拶をし、入浴・トイレ時には扉を閉めて羞恥心・プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で飲み物や着用したい洋服等自分の好みで選択できるようにしています。レクの参加は、ご自分の意思で参加できるよう声かけをしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に合わせた対応を心掛けている。食事・お茶の時間・入浴日・入浴順番等臨機応変に対応しています。一日の過ごし方も決まりは無く居室で編み物をしたり散歩・食事作りの手伝い 食事の後片付け等その方の出来るようなことを支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定できる方は、ご自身にお任せしております。欲し衣類等があれば担当者や家族が購入、時には一緒に買い物に行く支援をしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものがあるかを聴きとり取り入れている。行事食や季節の変化で季節を感じられる献立を考え準備・盛り付け・片付け等 お手伝いして頂いています。食事アンケートの実施を予定。	食事のアンケートを実施して「何が好き・食べたい物等」の感想から細かなケアに繋げている。料理によって食器の工夫や一品を付け、色合い等の見た目、刻み・とろみ等食形態を大切にしている。利用者は「準備・盛り付け・片付け等」を自らの役割として行っている。「クリスマス・おせち・節分等」行事食や「桜餅等」の季節のおやつを提供し、誕生日には寿司を食べに行って食事を楽しむ様々な工夫が行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に応じてカット・刻み・ミキサー食で対応している。摂取量の少ない方は、補助食品で補っている。一人一人に合った食事アイテムの使用 好みのお箸 湯呑等を使い食事の意欲が出るように支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。うがいが困難な方は、口腔スポンジでブラッシングを行っている。夕食前には、嚥下体操を行い誤嚥防止に努めています。利用者の状態等で(ご家族の希望に応じて)訪問歯科のクリーニングも行っております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況記録で排泄パターンを把握している。立位不安定な方でもトイレで排泄が出来るように対応支援している。状況に応じてオムツ外しも行っています。	排泄記録から排泄パターンを把握し、時間での声かけをしてトイレに座って排便が出来る事を大事にして支援している。自分で行く人やトイレが分からない人は動きを見て声かけをして誘導している。便秘の人は下剤を使用し、運動や牛乳を飲む事で薬に頼らない支援を心掛け、水分摂取量をチェックして排泄への効果を試している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操・散歩等適度な運動を心掛けています。食事では、野菜をなるべくメニューに取り入れたり牛乳を毎日提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度の入浴を基本として個々の好みの入浴グッズ・洗身タオル・ホテイヤンプール・ヘヤーシャンプーを使用し楽しめるように心がけています。	「今日の入浴者のリスト」を張り出して利用者が見て分かる工夫をし、2日に1回の入浴を支援している。体調や気分により順番や日を替えて対応している。入浴時には個々の好みの入浴グッズを使用し、ゆず湯や菖蒲湯に入り、会話をしながら楽しい入浴の時間となっている。脱衣場の温度管理や転倒には注意をして見守り、皮膚の点検をして打ち身・外傷等はヒヤリハットに記録し、安全面・健康面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠が取れるように日中の活動を増やしたり本人の希望でお昼寝をしたりと支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医務ノート・処方箋ファイル・で確認し薬の用途・副作用の把握に努めている。心身の状況変化には、医連・主治医に報告し相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事・庭掃き・床のモップかけ・手摺磨き・花の手入れ・水やり・カラオケ・外出・趣味・レク・散歩・外出・新聞購読(6名)等各自に合わせて支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は、お天気と利用者の状態に合わせて苑の周りを散歩している。これからは、遠出や皆様の希望する場所に行けるように家族のご協力を得ながら実践致します。	天気の良い日には午前午後散歩が行われ、車イスの人を利用者が押して一緒に出かけている。普段は杖を突いて歩く人もシルバーカーを押して足の運びが良くなり、ウォーキングも行われ、生き活と表情が良くなり食事も美味しくなっている。毎月行事を企画して「桜・あじさい・鯉のぼり等」観に行っている。また、家族や孫が来て一緒に夕食や誕生会にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては、現金は所持して頂いていないが、お預かりしているお小遣いは、外出時で買い物するときにご自分でお支払いが出来るような支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には、使用方法を伝えながらいつでも電話が出来るように支援しています。希望のある方は事務所にて電話出来るように支援しています。手紙類は、担当職員が支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関及びフロアーには、生花クラブでの作品や苑庭の季節の花々を分け 季節ごとのフロアーの飾り付けを行い皆様に季節を感じて頂けるように支援しています。	リビングは温度・湿度を管理し、丸テーブルや肘付きイスを配置して皆が集まれる場を作り、清潔感や季節感を大事にしている。毎月生け花を分け、毎月の行事の写真を掲示し、季節毎の創作物を飾って季節を感じている。利用者は新聞を読みチラシを見て買い物の話が弾み、将棋やトランプ、ボランティアによるリハビリ舞踊を喜んで行い、楽しく過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや畳み部屋を使って頂き利用者同士が寛げる場所を提供している。円テーブルで利用者同士で将棋を楽しんだり購読している新聞のちらしを見せ合ったりしている情景も見られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力を依頼し本人の使い慣れた調度品を搬入し写真や壁紙に工夫をし【自分の部屋】として寛ぎ居心地よく過ごして頂いています。	使い慣れたタンス・ベッド・冷蔵庫・テレビを持ち込み、孫の写真・遺影・感謝状・花を活け自分の部屋として居心地の良い居室となっている。パソコンゲームやビデオを揃えて自分の家づくりをし自分のペースで生活を楽しむ人や一日の時間割りを貼って体操や散歩等目標を意識している人もいる。居室の温度管理や掃除の出来る人は一緒に行き、夜間の巡回ではセンサーへの対応、トイレの支援や見守りを行って安全の確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・階段・浴室・トイレなど必要な場所には、手摺が設置されている。トイレや居室には名札等を明記している。又個々の身体状況に合わせ車椅子・ベッドの位置 家具等 検討し 安全 安心に生活出来る様に工夫し自立支援に努めています。		